



# 平成19年度 境町防災ボランティア養成研修会

いつ起きてもおかしくない災害に備えた、地域の支援体制づくりが必要です。災害時の各種支援活動への参加・協力と防災ボランティアの登録希望者を対象とし、活動に必要な知識や技能を持って対応できる「防災ボランティア」の養成を目的として、年4回開催するボランティア養成研修会の第1回目を境町で開催し、高校生から60歳代の49名が参加しました

## 普通救命講習AEDを使った心肺蘇生法の演習

5名1グループに分かれて、境消防署救急救命士猪瀬講師の指導のもと、まず心肺蘇生法の講義を行い、呼吸の確認、人工呼吸の方法、心臓マッサージの手順を繰り返し体験しました。休憩をはさみ、AEDを使った心肺蘇生法の演習を本番さながらに取り組みました。最後に修了者には開催地の消防本部より「普通救命講習」修了証が発行されました。



BLSボランティア茨城西南の方に指導をしていただく



人工呼吸をする



10グループに分かれ指導を受ける

## 熱のこもった災害ボランティア活動報告の講義

とちぎボランティアネットワーク事務局長矢野正広氏による「災害時のボランティア」と題して、新潟県中越沖地震の写真をスクリーンに写しながら、実際のボランティア体験をもとに講義が行われ、続いて6グループに分かれて実際に自分たちの町での災害を想定し、時間の経過とともに状況が変わっていく様子をシュミレーションしながら地図上に記入するといった演習「災害図上訓練」を行いました。受講者の方は以外に知られていない地域の様子や時間とともに変化する自分たちの町に困惑した表情でした。



特定非営利活動法人  
とちぎボランティアネットワーク事務局長  
矢野 正広氏



真剣な面持ちで災害マップに  
記入する受講者

演習の最後として「災害弱者と防災の課題」をテーマに、自分たちの地域にどのような人が住んでいて、災害時にどのように避難をさせたらよいか。火災、けが人、救出、災害発生2日目以降の行動、の4つに分けどのようにして災害を乗り切れればよいのか、について議論を交わしました。終了予定時刻をオーバーする内容の濃い講習でした。最後に「茨城県防災ボランティア」に登録し、研修会を終了しました。

## 参加された方の感想

- 「心肺蘇生法は体力を使い非常にハードでした。又、災害図上訓練では普段から地域や町内のことを知っておく必要があることを実感しました。」(50歳代男性町職員)
- 「救命講習は何回か受けているが実際にできるかどうかは不安。被災地の現状はニュース等ではわからないことばかりでしたのでためになりました。」  
(高校生の男女4名)

